

前衆議院議員

木原誠二

活動報告書

せいじ便り 33号

揺るぎなき挑戦!!



木原誠二の現在

政策研究大学院大学・研究員のほか、サラリーマンとして働いています。

何故とよく聞かれます。支援者の皆様から貴重なご寄付もいただいておりますが、これらは政治活動に使うもの。社会人として、アパート賃料、光熱水費、食費等、自ら賄うのは当然のことです。毎朝7時半頃東村山の家を出て、夕方5時半ごろ戻る生活をしています。政治活動は、夕方6時以降と土日に集中して行っています。



地元の勉強会で講師を務める。

引き続き皆さんの近くへ…

そんななかで、月刊誌WEIなど雑誌への寄稿、各町をめぐってのミニ集会、地域のイベントへの参加などに取り組んでいます。ミニ集会のご希望などございましたら、是非、お声がけください。



1. 地元の方々と国会見学 2. 各所でミニ集会開催中 3. 祭りに参加 4. 市民運動会にてスターター 5. 少年野球開会式にて始球式

そして、木原誠二は、在野にあっても以下に取り組めます。

A. 貴重な資源の有効活用

- ① 子供手当の一部は、学校耐震化、待機児童解消、学童保育充実などに活用。
- ② 高速道路無料化に多額の税金を使うのであれば、首都圏環状道路、成田・羽田リニアモーターなど、成長に不可欠なインフラ整備を行います。
- ③ 全ての農家にバラマクのではなく、都市農家を含め、農業の高度化、集約化などに取り組んでいる「ヤル気」ある農家に集中。

B. 財政再建に早急に目処

- ① 国家公務員人件費の削減
そのために「43歳いったん定年制」の導入
- ② 議員定数の大幅削減
- ③ 消費税の引上げ(5%⇒10%)
- ④ 法人税引下げ、地域購入法制定、成長に不可欠なインフラ整備、日本海外売込み隊創設、など成長戦略の実施

C. 政治主導に見合う

質の高い政治の実現

- ① 一票の格差是正
- ② 議員定数の大幅削減
 - ・衆議院 480→300
 - ・参議院 242→100

D. 世代交代の実現

原因を作った人がいくら、「財政再建」、「クリーンな政治」といっても始まりません。少なくとも自民党は、世代交代を図って、一度リセットをするときです。

あらためて政権交代は不可避でした…



小さいころ、父親の背中をよく流しました。自分の背中の垢はなかなか落とせないから、お互いに背中を流し合う。政治も同じかもしれません。

自民党も、結局、自らの垢を落とさずきませんでした。政権交代が起きたことは、自民党自身が、また政治全体が垢を落とす意味でも有意義でした。

ところが、民主党よお前もか

ところが、民主党は政治の垢を落とすどころか、古い自民党以上に自民党的体質であることを露呈しています。公共事業の箇所付けの事前漏洩や予算を餌にした各種業界の露骨な支援取り付けなど、自民党でもここまでの利益誘導はしなかったのではないのでしょうか。

皆さん、ご存知ですか？
民主党は、

- 高速道路建設は抑制、高速道路は無料化といていたのに、逆に高速道路料金を値上げ、高速道路建設も推進することになりました。
- 子どもの立場より学校の先生、日教組に配慮して、学校の先生の免許更新制もやめてしまいました。
- 17兆円ものバラマキの財源は無駄撲滅でねん出といっ



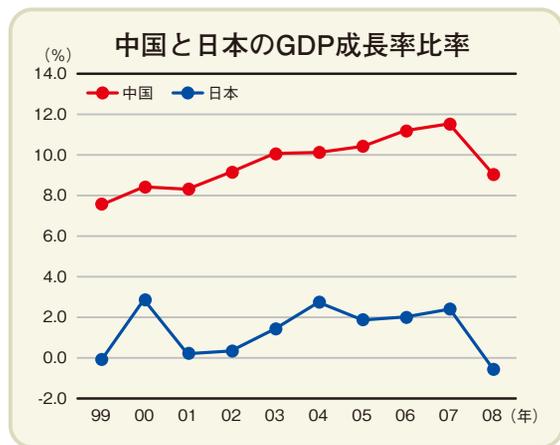
ていたのに、結局大増税に舵を切ろうとしています。

何よりも恐ろしいのは、

政治とカネの問題について、民主党内から、鳩山総理や小沢幹事長を非難する声がほとんど出てこないことです。

しかし、我が国には、時間がありません

そんな民主党は、まだ政権にいたいばかりだからもう少し待ってといます。でも、そんな時間が本当にあるでしょうか？



我が国は、①財政の破たん、②中国の追い上げという二つの喫緊の課題に、人口が減少する中で、対処しなければならぬのです。

早急に財政の再建を

900兆円に及ぶ借金を抱えながら、毎年予算の半分を借金で賄う国は日本だけです。本年度の税収見込み37兆円では、過去の借金返済20兆円に使ったら、年金・医療・介護27兆円の一部しか賄えず、防衛費や教育費には全く残らないのです。



バラマキ路線を突っ走っていますが、確実に言えることが一つあります。政策の自由度が年々下がっていることです。過去の借金返済に大変で、「成長戦略」を実行しようにも、社会保障を充実させようにも余裕がない。財政赤字は、確実に、日本の競争力、社会的基盤を殺いでいます。

早急に財政赤字の削減に取り組みなければなりません。遅れば遅れるほど、借金残高は増え、金利も上昇して、借金返済に必要な金額は膨らむのです。経済成長、安心な人口減少社会の前提の一つが、財政の健全化です。

自民党、お前がいうな…

長く政権にいた自民党が何を言っても、自らに唾する行為です。しかし、民主党がバラマキを続ければ国は確実に破たんします。だからこそ、長い政権時代とは無縁の我々若い世代に、以下のことに取り組ませてください。

- ① 事業仕分けの制度化 (各省庁毎に事業仕分けの仕組みを内部化)
- ② 45歳いったん定年制の導入などにより「公務員人件費の抑制」
- ③ 消費税10%への引上げを含む抜本的税制改正の実施。



そのために、参議院選挙は、正念場です。

政権奪還に向けて。自民党は、
東京選挙区の中川雅治参議院議員、比例区の保坂三蔵前参議院議員
はじめ、多数の候補予定者を擁立いたします。



参議院選挙のしくみと投票方法

参議院選挙のしくみ

参議院議員選挙では「選挙区」と「比例代表」それぞれに投票する必要があり、1人が「2票」投票することになります。



参議院選挙の投票方法

選挙区選挙の投票

「候補者名」を書いて投票します。

投票用紙は黄色

自民太郎

候補者名を書いて投票

2回目の投票は

比例代表選挙の投票

「候補者名」または「政党名」を書いて投票します。

投票用紙は白色

自民花子

または

○
○
党

候補者名または政党名を書いて投票

参議院比例区に挑む自由民主党35人の精鋭

(平成22年5月13日現在)

秋元 司 38 現・1期	平田 耕一 61 元・1期、前衆議院議員(2期)	木村 義雄 62 新・前衆議院議員(7期)	日置 龍晴 53 新・日本トライノガル(株)代表取締役社長
神取 忍 45 現・1期	赤石 清美 62 新・日本衛生検査所協会顧問	小坂 憲次 64 新・前衆議院議員(6期)	堀内 恒夫 62 新・前巨人軍監督
中村 博彦 67 現・1期	阿達 雅志 50 新・米国ニューヨーク州弁護士	佐藤 ゆかり 48 新・前衆議院議員(1期)	松浪 健四郎 63 新・前衆議院議員(3期)
西島 英利 62 現・1期	一瀬 明宏 53 新・福井県議会議員(3期)	柴野 多伊三 58 新・国際問題アナリスト	三橋 貴明 40 新・作家、経済評論家
水落 敏栄 67 現・1期	臼井 正人 47 新・千葉県議会議員(2期)	高階 恵美子 46 新・前日本看護協会常任理事	三原 じゅん子 45 新・介護施設経営者、女優
山谷 えり子 59 現・1期	宇都 隆史 35 新・元航空自衛官、松下政経塾生	田島 みわ 46 新・(株)TAJIMA代表取締役社長	門傳 英慈 47 新・元全国農協青年組織協議会会長
脇 雅史 65 現・2期	大西 宏幸 42 新・大阪市議会議員(4期)	角田 宏子 43 新・元横浜市議会議員(2期)	安井 潤一郎 60 新・前衆議院議員(1期)
藤井 基之 63 前・1期	小野寺 有一 43 新・岩手県議会議員(1期)	富田 篤 62 新・日本伝統工芸士会 伝統工芸士	渡辺 具能 69 新・前衆議院議員(4期)
保坂 三蔵 70 前・2期	片山 さつき 51 新・前衆議院議員(1期)	中野 正志 62 新・前衆議院議員(3期)	

国家公務員43歳いったん定年制を

公務員制度改革が混迷しています。

「天下り根絶」を声高に叫んできた民主党は、郵政トップに大蔵次官OBを持つてきたりと、実際には逆の行動をとってききました。そして、今度は、天下りをなくすために、官僚組織内で「高級スタッフ職」の創設や独立行政法人などへの「現役出向」を始めるそうです。「高級スタッフ職」は、単なるやけ太りですし、「現役出向」の実態は天下りと変わりません。

そして、給料の高い年配の役人ばかり残り、人件費が高止まりするだけです。それでは「人件費2割圧縮」の民主党の公約はどうなってしまうのか?と思ったら、新人の採用を4割削減するそうです。

しかし、これでは、官僚組織の人材構成は逆ピラミッドに近づき、新陳代謝が進まず、どんどん活力が失われてしまいます。

なぜこんなことが起こるのか?外面では「天下り根絶」、「公務員人件費2割削減」とかっこいいことを言いながら、支持母体の官公労にきがねして、公務員への労働基本権付与、給与カットのための仕組みづくりなどの課題を放置しているからです。普天間問題と一緒です。「県外、国外」と、かっこいいことはいうが、何ら対応をしていない。

本当はどうしたらいいのか?

天下り問題の根源は、一人のトップを残して後は退職していく「早期退職勧奨」の実施にあります。しかし、どんな組織でも、新しい血を入れ、活力を維持するには、ピラミッドをある程度維持していくことは必要で、そのために「早期退職勧奨」は不可欠です。ただ、公務員の世界と民間の世界とは、求められる技能や知識が全然違いますから、5歳前後になって第二の職場を探せといわれても、なかなか難しいものがあります。だから、公益法人とか独立行政法人など、少しでも公務員の世界に近い職場を天下り先として確保しようとする。

そこで、天下り問題を語るためには、全く違うアプローチが必要です。

「43歳いったん定年制」が、解決の切り札です。大学新卒採

用を前提として、20年後の43歳時点で、いったん退職をしてもらって、公務員としての資質が高く、組織の中での競争に打ち勝っていきける人材を雇用しなす。公務員としては今後の出世競争で必ずしも有為でないとされる人材には、別の職場での再出発を促す。それでも残りたいという人には、「今後は給料がこれまでのようには上がっていかない、頭打ちになりますよ」ということを認識させて、人件費の高騰を招かない形で再雇用する。「よし次の職場で頑張ろう」という人には、1〜2カ月程度の職業研修を行う。

要するに、後戻りが難しくなってくる50歳前後ではなく、40歳前後で、いったんケジメというか、勝負をつける。

同時に、43歳までの20年間のうちに官民交流を促進して、できる限り民間での仕事の経験を積ませる。せておくことも不可欠です。

これからの政治は、単に公務員を叩くだけでなく、具体的な解決策を示していくことが求められています。かっこいい公約と支持組織の温存という両立しえないことを追い求めて、その結果が官僚組織の活力低下では、一番泣くのは国民です。



コラム 外へ出よう

人口減少、成熟社会化する我が国の成長のためには、日本の企業も個人もどんどん外に出て勝負をするしかありません。ところが、その基礎となる我が国の若者が外に出なくなってきたいます。私が留学、仕事をした英国でも、海外留学生は、中国、韓国などに日本は抜かれてしまっているのが現状です。

子ども手当で、高校無償化もいいですが、また、留学生受け入れプログラムもよいですが、それらのほんの一部を日本の若者の海外留学プログラムに回してはどうでしょうか。

木原せいじ事務所

東村山事務所

〒189-0013 東京都東村山市栄町2-22-13
松岡ビル2F

TEL 042-392-4105 FAX 042-392-4106

木原誠二 オフィシャルブログ

<http://ameblo.jp/kiharaseiji/>



木原せいじ公式 モバイルサイト

<http://kiharaseiji.com/k/>
携帯電話から木原せいじ
モバイルにつながります。

木原せいじプロフィール

年金・医療・介護、障害者福祉、行財財政改革、公務員制度改革、都市農業など幅広く活動を展開。

1970年6月東京生まれ。私立武蔵高校、東京大学法学部、ロンドン大学LSE修士卒業。平成5年大蔵省入省。平成17年9月衆議院初当選。著書に「英国大蔵省から見た日本」(文春新書)

